



発行所 宗 教 法 人 寶 生 教 大 阪 本 部
 大 阪 市 西 区 北 堀 江 3 丁 目 1 0 番
 電 話 06 (6531) 6722
 F A X 06 (6531) 6152
 © (非 売 品)

7月号

自家成立の
 根源は和にあり
 秩序の根源は
 神祖崇敬より

当本部の夏祭り
 立教記念大祭
 七月二十九日(日) 午前十時半
 宵宮・納涼会
 二十八日(土) 午後四時より

こんばんは。熱心に御参拝いただきまして誠に御疲れ様でございます。

本日は、私どもの寶生教つまり、神道では人の「死」というものをどの様に説いているのかお話をさせていただきます。

この世に生きとし生けるもの全ての生命に限りがあります。私達人間もそれぞれの寿命が尽きれば「死」を迎える訳です。

「死」という言葉を目にするとなんとなく恐い印象をどなたもが受ける事でしょう。

これは、この世に生を受けた全てのものが生きる事を目的とし、それぞれの種を後世に継いでいく事を目的としているからです。

この事は自然の法則、つまりこの世を作り出した神々の意志に他なりません。

それほど生命とは尊く、「死」とは特別なものなのです。

日々、私達の肉体は年老いて参ります。

そしていよいよ、その肉体が生命の維持が出来なくなった時に寿命を迎える訳です。

私達の肉体は、自然からの借り物です。

ですから、いずれ肉体は自然に還るのです。

世界中の多くの地域で遺体の埋葬が元は土葬で行われていたのはその為で、火

話 教

寶生教(神道)の死生観

祭 並 月 (6月1日)

葬で故人を送り出すようになったのは割と最近の事なのです。

余談ですが、イスラム教では原則として土葬しか認められていませんし、中央アジア辺りでは、鳥葬などの習慣も未だ残っているようです。

これらを見ると、肉体はいずれ自然に還るといえる考え方は私達神道だけでなく宗派を越え万国共通の認識と云えるでしょう。

それでは、肉体に宿るそれぞれの魂は、肉体が消滅した後どうなるのでしょうか。

これこそが、今日のお話の本題なのですが、人の死後、それぞれの魂はどうなるのかは、各宗教によって説き方が違います。

この事を「死生観」という言葉で表現したりしています。

寶生教(神道)では、そ

れぞれの魂を神の分霊と云います。

つまり私達一人一人の魂は神様から直接分け与えて頂いた魂であり、この世に人として生を受けるとい

事はとても尊く畏れ多い事なのです。

皆さんは、「輪廻転生」という言葉を聞いた事があるでしょう。

これは、仏教用語で命は亡くなっても別の命に生まれ変わるとい意味の言葉

です。

私達の寶生教(神道)では例え亡くなったとしても生まれ変わるとい事はありません。

私達が頂いた命は、一代限りです。

一人々に頂いている命は神の分霊であると前述しました。

その分霊は、生命尽

き肉体が消滅しても存在し続けるのです。決して生れ変わるなどという事はないのです。

そしてその魂は未来永劫存在し、あの世とこの世を行き来し、残された遺族の幸わせの為に、更には祖国

日本の為に、世界平和の為に活動して下さるのです。

ですから、私達の寶生教では特に祖先祀りを大切にしているのです。

寶生教(神道)では、人

が亡くなられてから五十日一つの区切りとしています。亡くなられた日を基点に十日、三十日、五十日に慰霊祭を行います。

「五十日祭」迄の間、遺族は、その方の死を悼み喪に服するのです。

五十日祭で故人の霊は祖先の霊舎に共に鎮り頂き遺族は「服喪」から普通の生活に立ち戻るので。

祖先祭はその後、百日祭、一年祭、三年祭、五年祭、十年祭、その後は五年毎に五十日祭までお任せします。

この五十日祭で故人の霊は大きな区切りを迎えます。

死後五十年経つと、その霊は遠津御祖先と云って位が一つ上がります。そして、五十年経つと、その故人の為だけの慰霊祭も行う必要はありません。

更に五十年、つまり亡くなって百年経つとその霊は神になるのです。

神の分霊として与えられ

た私達の命は、それぞれの寿命を精一杯生きた後、子孫等の慰霊を受けながら百年後に再び神の御元に神として還るのです。

これが古来より日本という国で日本人が受け継いで来た真実の「生」と「死」の考え方、つまり寶生教(神道)の「死生観」なのです。

これは、仏教が日本に伝わる前から行われていた祖先祀りに対する考え方でもあり、祖先祀りこそ神道行事であるのです。

私達、日本人は和民族は、神の子であると云われるのは、こう云う事にも起源がある訳です。

私達、寶生教(神道)を信仰する者は等しく神の御子であります。

その事に誇りと自信を持ち、祖先の為に、今を生きる自分の為に、未来を生きる子や孫の為にしっかりと信仰を続けて参りましょう。

話 教 御養蚕をお伝えになる ご 皇后陛下にならつて

祭 並 月
(5月15日)

皆様こんばんは。ようこそご参拝下さいました。先日、皇后陛下が「皇室の御養蚕」について、雅子妃殿下にお伝えなされる、という旨の報道がありました。

この皇室で行われている「御養蚕」。明治四年に当時の皇后さま（昭憲皇太后）がお始めになり、それ以来、歴代の皇后さまに継承され現在に至り、来年の譲位に向けて雅子妃殿下へと受け繋いでおられる伝統です。

皇后さまは毎年五月から七月、「御養蚕始の儀」という儀式をはじめとする様々な儀式を執り行われます。これらの儀式は、皇后さまがお一人で行われるわけではなく、勿論ありません。皇后さまと宮内庁の職員、合わせて六、七人で行われるのだそうです。

皇后さまは、お忙しい御公務の合間を縫って、御養蚕所と呼ばれる場所に於いて、桑の葉の世話や、蚕が繭を作るまでの足場を作る等、細部に至るまであらゆる工程に関わっておられるのです。

こちらで育てられる蚕の品種に「小石丸」があります。この品種は現在、宮中ではしか生産されていないのだそうです。元々は野生にいた蚕ですが、長い時間をかけて品種改良され、より上質な絹糸を産出できるようになったのだそうです。

ところが、小石丸は大変飼育が難しいそうで、昭和の終わりの頃には、一時飼育の中止が検討されたそうですが、現在の皇后陛下が、「この蚕は日本の純粋種と聞いており、繭の形が愛らしく糸が繊細でも美しいので、この様な古いものを残しておくべきではないでしょうか」と仰せられたので、現在も飼育が行われているのです。

稲作と並んで、古来日本の伝統産業の一つである養蚕を、皇后さまが歴代の皇后さまから継承されているということなのです。

皇后陛下はこの養蚕を、雅子さまは勿論、眞子さまにもお伝えしたいということと、このようなお手紙を送られたそうです。

「今はあばが御養蚕の仕事をしていきますが、このお

仕事は、眞子ちゃんのおじ様のひいおば様の昭憲皇太后様、おば様の貞明皇后様、そしてお母様でいらっしゃる香淳皇后様と明治、大正、昭和という三つの時代をおつてばあばにつたえられたお仕事です。ですからぜひあなたも引き継いで下さい。」

扱、この小石丸という蚕から生産された絹糸が、大変役に立った出来事がありました。それは平成六年に始まった「正倉院宝物染織品復元十か年計画」で絹織物を復元するにあたり、その材料となる糸に最も相応しいのが、真にこの小石丸だったのです。

現在の糸は太くて丈夫なのですが、織ってみますとやはり昔ながらの小石丸でなければ繊細な美しさがでない、ということと小石丸が必要となったのです。

しかし問題となったのが、当時、皇居の御養蚕所では年間六、七キロの繭を生産されていますが、復元に必要なのは何と四十キロと

のこと。先程申しました通り、小石丸は宮中でしか生産されておりません。それを聞きになった皇后様は、「ぜひ生産量を増やして、正倉院のために我々が努力しましょう。」

ということと、必要量を上回る、四十八キロを生産され、しばらくその生産量を維持されたお陰で、無事に正倉院宝物が復元されたというわけなのです。

この様な養蚕などの日本の伝統文化を後世に伝えていくことに、皇室が大変努力して下さっているということが、この度の皇后さまの御思い、御姿からもおわかり頂けるかと思えます。そして、我々が信仰を子供達、孫達に受け繋いでいくにあたって、皇后陛下が、雅子さま、眞子さまに御養蚕をお伝えになったような、皇室家の御姿がヒントになるかも知れません。

難しく考えるのではなく、何故私達が寶生教を信仰しているのか、そして日々感じる信仰の尊さ、常に頂くご守護、ご恩を、ご自分のことばで語られることが大切なのではないでしょうか。どうぞ寶生教の信仰に誇りと自信を持ち、自分達のことばで後世に伝えていく努力を、共に続けていきたいと存ずるところでございます。本日はようこそご参拝下さいました。

当教会境内地で開催される。

熊本地震復興支援写真展 (チャリテイマルシェも)

五月十六日から二十日迄の五日間、熊本地震復興支援写真展が、大阪本部教会修行殿で開催されました。京都のアーティスト支援活動団体、AS2(アスツ

1)主催の写真展では、被災地熊本県益城町の様子や、当地に鎮座する木山神宮の倒壊した本殿等の写真が、逆三角すいの立体的な展示方法で表現されました。又、十九日にはチャリテ



お茶席も設けられたマルシェ



修行殿内でのモダンな写真展



玄關前では「獅子舞」も出現

イマルシェと題し、様々な飲食店や雑貨店が本部教会境内に立ち並び、教信徒、多くの地域の方々も来場されました。被災地復興祈願祭も修行殿御神前に於いて執り行い、「鎮魂と復興の獅子舞」も披露されました。被災地の一日も早い復興を祈りつつ、今後ともこうした社会奉仕に教信徒皆様と共に寄与して参りたいと存じます。

ご教話 思いおこそう、信仰への熱意

祭 祖 祭
(6月9日)



ご教話なさる大阪本部長様

皆様こんばんは。本日は梅雨の晴れ間で昼間いいお天気でしたね。それぞれにご予定のある所、熱心に教祖祭にご参拝頂きまことにお疲れ様でございます。

先日、あるテレビ番組で長崎県五島列島にあるキリスト教会群が世界遺産に登録される事が、ほぼ決定したと取り上げられていました。五島列島の自然に溶け込む木造の教会群の素晴らしい景観と長い歴史の中で伝えられたキリスト教信仰が評価されこの度、世界遺産に登録が決まったそうです。何故、五島列島に沢山のキリスト教会が建てられたのか？

これには、歴史的な背景があるのです。一五四九年、長崎辺りにフランシスコ・ザビエルというスペイン人の宣教師が上陸し日本にキリスト教が持ち込まれました。時は戦国時代、織田信長が全国統一を虎視眈々と狙っていた時代です。その頃に長崎に辿り着いたザビエルは当時の長崎辺りを治めていた島津氏や大内氏に面会しキリスト教布教の許可を求め認められました。

何故、キリスト教という外来宗教が割とすんなり布教許可を得られたのか？ それには、戦国時代という特殊な事情があったようです。他国よりも少しでも優れた武器を手に入れたいと各

領主は望んでいました。ザビエルは、布教許可の引き換えに鉄砲などの当時、最先端の武器を始め、西洋の文化、医療などを提供したと云われています。そう云った理由により、九州の各地で早くからキリスト教は広まり、キリシタ

ン大名と云われるものまで誕生しました。時代は進み、いよいよ織田信長は、キリスト教と共にもたらされた鉄砲を駆使し当時、最強と云われた武田騎馬軍を散々に打ち破り全国統一が現実味を帯びて来ました。信長は一貫してキリスト教の布教を認め、西洋の文化を積極的に取り入れたと云われています。しかし、有名な本能寺の

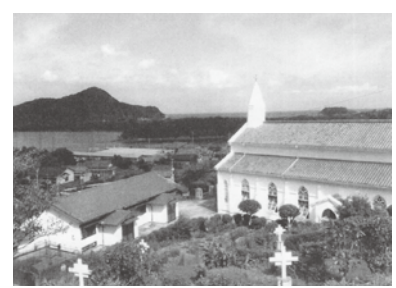
変で全国統一を目前にしなから命を落とします。その後を引き継いだのが豊臣秀吉は、皆さんご存知でしょう。秀吉も当初はキリスト教に関して寛容な態度を取っていました。秀吉の覇権は全国に広まり九州も手中に収めた頃、秀吉はある情報を入手します。キリスト宣教師等は、純粹に布教の為だけに日本に

総勢二十三名が参加されました。テント張りや火起こしなど、皆で楽しく準備するのでも、BBQの楽しみの一つです。準備が出来れば美味しいお肉や野菜を、大人も子供も、そして実行委員もお腹いっぱい頂きました。それぞれ会話にも花が咲き、シメの焼きそばも頂き、お腹も心も一杯になった頃、豪華賞品が当たるビンゴ大会が始まり、更に大盛り上がり。終始笑い声の絶えない、充実した行事となりました。

納涼会等、今後の行事にも楽しい企画を検討しておりますので、大勢ご参加いただき、共に盛り上げて頂きますようお願い致します。

来ている訳ではなくポルトガルという国による植民地獲得の為の先兵としての役割を大いに担っていたのです。秀吉は、これまでの態度を一変させ、キリスト教を禁止しました。この姿勢は、徳川幕府の鎖国という政策に引き継がれます。当時、九州では既に多くの日本人がキリスト教信者になっていました。そう云った理由で九州では厳しいキリスト教徒の弾圧が行われました。それほど、キリスト教がヨーロッパ列強諸国の植民地政策に多大な貢献を果した事実、世界の歴史、アジア各国の被植民地の悲劇を見れば一目瞭然でしょう。五島列島にも当時から多くのキリスト教徒が存在しており、やはり幕府から苛

五島列島の美しい自然の中にある教会群



立ってよし、座ってよし、日差しOK、日焼けNO？

青年部
舞洲オートキャンプ場でBBQ
ービンゴ大会もあり笑い声いっぱいー
五月二十七日(日)、青年部、春のBBQ大会が、大阪市此花区にある舞洲オートキャンプ場にて開催されました。当日はお蔭様で陽射しもなく、過ごしやすいた候のもと、小権現職様を始め、

酷な迫害を受けていました。しかし、クリンタン達は洞窟などに隠れ住み、信仰を続けていたそうです。約三百年続いた徳川幕府も遂に倒れ、明治の御世と世の中は移り変わります。

明治政府も当初はキリスト教を禁止していましたが、欧米の圧力によりキリスト教を認める事になりました。これにより晴れてクリンタンの人々はキリスト教を信仰していると堂々と胸を張って言える様になったのです。

その時に多くのクリンタンがカトリックに改宗したそうです。一方、カトリックではなく先祖より伝えられた日本式のキリスト教を守りたいという人達も少なからずおられたそうで、その人等の事を「潜伏クリンタン」と呼ぶそうです。

私が見た番組で紹介していたのは、時には処刑され、拷問されても自分達の信仰を貫いた潜伏クリンタンの信仰の姿と教会群です。

今、現在でも潜伏クリンタンの子孫の人たちが、先祖から受け継いだ姿をそのまま受け継ぎ信仰を続けているそうです。

その人等に、キャストがインタビュアーしていま

した。「何故、現在に到っても昔ながらの独特なキリスト教を信仰しているのですか。」という問いに対し、次の様に答えておられました。「もちろん神の存在も認識しているのですが、やはり、先祖等が命がけて伝えられた信仰を私達の代で終わらせる事が神に対しても、先祖に対しても申し訳ないと思うのです。」

この言葉に私は、大変感銘を受けたのです。更に番組は進み、明治始めに建てられた一つの教会に焦点が当てられています。

その教会は、たった十五、六軒の半農半漁の家々が作った教会だそうです。その建築費は当時約二三四〇円余り、今の貨幣価値に直すと約二億円と換算されています。

たった十五、六軒の決して裕福とは云えない半農半民の人々が自分達の食費を削ってでも資金を捻出し教会を建てたのかというところ、その当時の人々は迫害を受けた時に余りの苦しみから本当はキリスト教徒なのに、仏教徒である口にしてしまった事が神(キリスト教)に申し訳なく、その償いの思いで教会を建てたそうです。

当時の人々の信仰に対する熱意、その想いを約五百年後の現在にまで伝えておられるその姿に信ずる神は違えど、信仰する者として深い感動を覚ええました。

私達は、世界一尊く、強い力をお持ちの八津御嶽大神様を信仰しています。

例年恒例となりました。夏休み子供合宿を、今年も一泊二日で行います。

教会内での合宿を通して教会に親しみ、教会での友達を増やす良い機会です。楽しい企画を考えています。初めての方も、新しいお友達も、すぐにできます。

有意義に夏休みを過ごすスタートに、ぜひ、たくさんの方のご参加お待ちしております。

日時 七月二十一日(土) ~ 二十二日(日) 午前九時集合 午後五時解散

場所 大阪本部教会 費用 ありません。

※宿泊されない方、どちらか一日だけでも参加可能。 ※小学生を対象としています。

夏休み 子供お楽しみ合宿 参加受付中

自分達の信仰を今一度見直し、先代、先々代の身近な祖先等がどの様にしてこの大神様とご縁を頂き、どういう想いで自分達に信仰を継いで下さったのか、ご教祖生誕百五〇周年のこの年に振り返ってみるのも、大きなお徳を頂く良い機会になるかも知れませんね。

ですが、中学生以上の方も参加いただき、お手伝いをお願いします。 ※参加申し込みは、教会事務局へ、七月十五日まで お願い致します。

愛教婦人会主催 『コーラス』への誘い 大きな声を出してスカッ！

教会にお参りさせて頂き 皆様楽しいですよ。是非大きな声を出し、健康を戴きご参加下さい。お待ちしております。岸田副会長の指導のもと、コーラスの練習をしています。 (練習日) 七月十四日(土) 七月十八日(土) 八月 四日(土) 十八日(土) (午前九時半~十一時)

教会行事

七月 一日(日)	月並祭	午前十時
七月 七日(土)	養老教会修行日	午前十一時半
七月 八日(日)	御本宮月並祭	午前九時
七月 九日(月)	御本宮遙拜式	午前十一時
七月 十一日(水)	宝生会(ザCC)	午後七時
七月 十四日(土)	名古屋地区敬和会	
七月 十五日(日)	月並祭	午前十時
七月 十六日(祝)	西播教会修行日	
七月 二十日(金)	神伝灸	午前九時~午後二時
七月 二十一日(土)	夏休み子供お楽しみ合宿	
七月 二十二日(日)	夏休み子供お楽しみ合宿	
七月 二十八日(土)	宵宮式・納涼会	午後四時
七月 二十九日(日)	立教記念大祭	午前十時半
八月 一日(水)	月並祭	午後七時
八月 五日(日)	御本宮月並祭	午前十一時半
八月 八日(水)	御本宮遙拜式	午前九時
八月 九日(木)	修行日	午前十一時、午後七時
八月 九日(木)	修行日	午前十一時
八月 九日(木)	教祖祭	午後七時

祝祭日には必ず国旗を掲揚しましょう

寶生教 国旗掲揚運動